

教員養成に係る教育の質の向上に係る取り組み

【組織として実施している事項】

- 教職課程履修者に対して卒業直前に教職課程の履修に関する「教職課程の履修を振り返って」を実施（満足度等）し、その結果を本学教育職課程の運営の改善に繋げている。
- 高校長等を経験した方（本学非常勤講師、外部学校の教員、校長協会関係者等）と教職課程担当教員との懇談の機会を設けている（改善に関する意見聴取等）。結果を、本学教育職課程の運営の改善に繋げている。
- 教職課程を履修して卒業した方に対して、教職課程の改善のための意見等の収集をしている（改善に関する意見聴取等）。結果を、教育職課程の運営の改善に繋げている。
- 授業科目「教育実習事前事後指導」「公民科教育法」他の授業科目において授業担当以外の教員が授業参観を行い、学生の学修度合いのチェックを行うとともに、各教員の教職に関する授業科目の改善に活用している。
- 教職課程運営委員に対して教育実習における研究授業を参観することを奨励している。
- 教職課程運営委員に対して学内の他教員の授業の参観・全学のFD活動への参加を奨励している（全学FDとしての取り組み）。
- 教職課程履修指導・相談の実施をしている（新入生オリエンテーションにおける相談コーナー、個別履修相談他）

【実際の教育・指導において実施している事項】

- 教育支援室における教職課程に関する履修等の相談・支援
- 個別（学生）面談の実施（3学年前期）
- 現職教員の授業への参加（特別講師として現職校長、教員及び教育委員会主査他）
- 教員採用検査に対する勉強会（支援）の実施
- 学校ボランティア活動への参加案内・支援（教育委員会のボランティア登録への支援）
- 高校及び特別支援学校の授業参加及び参観（複数の授業にて実施）

【卒業生への評価の実施】

高校・特別支援学校に勤務されている本学卒業生から、本学の教育課程に対する「評価（コメント）」を頂いております。様々な方からご意見等を頂きながら、教職課程の一層の向上に努めています。

（卒業生から）

医療大学ならではの『実践で役立つ授業』を数多く受けることが出来ました。身障者に対する授業方法、支援方法、それらの知識を一般の高校でも役立てるための考え方、全てが現在の教員生活で活かされていると感じています。公民の授業もより多く取り入れると更に良くなると思います。

(卒業生から)

医療大の教職課程の良い点は、他学部や外部からの講師の講義は、福祉マネジメント学科での講義だけでは知り得ない教師になるための講義内容となるため学生が講義に抱くいわゆる『マンネリ化』を防ぎ、自発的に講義に望める刺激的なカリキュラムとなっている点。

改善点は、机上での学習が多く、実際の現場を目にする機会が教育実習くらいで、見学も数回ほどしかない。そのため入学1学年から教職課程を意識した実践的な講義を導入することが必要。具体的には実習や見学、当事者とのレクや、指導中の映像を観る等である。

(卒業生から)

【良かった点】少人数授業で、その場で質問がしやすく、その日の講義の中で理解が深まりました。現職の先生や元先生などの話はどれも現実味や説得力があり、教員を目指している私にはどれも勉強になるものばかりでした。

【改善点】模擬授業で、授業をシミュレーションしたり、数人でディベートする講義がもう少しあると、現場では役立つと思います。知的の学校や肢体不自由の学校など、特別支援学校の授業や指導案のイメージが持ちづらい部分は正直あると思います。ビデオや見学などで、よりイメージしながら普段の講義を受講できたらなお良い。

(卒業生から)

医療大の教職課程では、教育現場での経験がある先生方からより具体的な学校の様子を伺え、「教員として働くこと」を意識しながら学ぶことができました。

また、福祉の実習も平行して行われるため教育と福祉の関わりも同時に学べる環境が卒業してからも、とても生かされています。

(卒業生から)

現場を経験した先生方に教わることで、具体的なエピソードを聞くことができ良かったです。教職の先生の話や講義は現場での生徒との関わりで物凄くいきっていきます。福祉の講義より楽しかったです。

教員採用試験の対策では、もっと具体的にどのような試験内容なのか、どのような雰囲気なのか、体験談などを知ることができたら、もう少し本腰入れて勉強していたかもしれないです。教員採用試験の時期が早すぎて実感が持てなかったことも大きいです。

(卒業生から)

教職を担当している先生は、とても熱心だった。何度も助けられた。教員への就職も(教職の)先生のおかげで出来た。ありがとうございます。

(卒業生から)

教職は特別支援学校の免許が取得できるので、この大学で学んだ。特別支援学校で仕事をしているが、医療大学の卒業で良かった。福祉のことも深く学べて、学校の仕事でも役に立っている。教育と福祉を同時に学べるのが良かった。

(卒業生から)

北海道医療大学福祉マネジメント学科の教職課程では、外部講師を最大限に活用したカリキュラムが組まれています。現場経験の豊富な講師による講義は、実践に基づいた技術を学ぶことができました。また、教職課程は福祉の勉強・実習と平行して行われますが、福祉で学んだことを教職に、教職で学んだことを福祉に活用することもでき、福祉の視点と教育の視点の両方を身につけることができました。

教職課程の講義は少人数で行われるため、メンバー同士での濃密な話し合いや評価を行うことができました。互いに評価しながら知識や技術を培い、目標に向かって共に作業ができることも、少人数である教職課程の魅力の一つであると思います。